



コスタリカ国草の根技術協力

「生活改善アプローチによる農村開発モデル事業活動報告」

No. 8

2016.6.9

～改善の兆し～

NPO 法人イフパット 研究員 小林沙羅  
(現地調整員/生活改善ファシリテーター)

前回のサンタリタ村における計画策定ワークショップで作成されたアクションプランのフォローアップのために、ファシリテーターと村を訪ねました。訪ねたのはカマドに屋根を付けたいと計画していた女性でした。屋根を付けるということは、お金がかかる改善であり、ファシリテーター達が実現可能なのかを心配して、今回の訪問に至りました。そんな心配をよそに、彼女は既に写真の通り、廃材を利用してかまどの上に屋根、かまどに煙突、そして外に面していたトイレのドアを家の内側に設置していました。当地では雨季が始まり、雨に濡れないために行った改善でした。このことで、住環境の改善、ひいては雨に濡れて風邪をひかない、かまどの煙に悩まされないことで健康状態も良く出来るとのことでした。



彼女は生活改善を学び始めてお金をかけなくても出来ることがたくさんあると気づき、夫と一緒に実践を始めたところです。改善活動のための資材は、近所の人からもらったト

タンなどの廃材でした。カマドの煙突は壊れた洗濯機のドラム缶を曲げて作ったということです！ファシリテーターがワークショップで話していた「持っている靴をきちんと並べるだけでも、靴を探す時間が短縮され、家が整頓される」という実例を聞いて、お金をかけない改善に開眼したそうです。また、家族関係や近所との関係も日々の接し方を少し変えるだけで穏やかに毎日を過ごせる、目には見えないけれどストレスを感じないため出来る改善であると話していました。

これからは川の石を集めて家の前に小道を作ったり、鶏などの家畜が家に入らないように柵をつけるなどの改善もしていきたいとのことで、最初の改善活動を実践することで達成感を感じられたようでした。これからも、ファシリテーターと共にこのような小さな改善が継続的になされるため支援を続けて行きます。次回のワークショップでは、彼女が改善活動を他の参加者に発表する機会を作り、グループ全体の動機づけへとつなげていきたいと考えています。



トイレのドアの位置を変えただけで、もう毎日雨に濡れずに済みます。



カマドに煙突を付けることから、改良カマド導入などにも繋がるかもしれません。